

鹿大ジャーナル

KADAI JOURNAL

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

本学のユニークな研究紹介

ナノテクノロジーでエイズワクチン開発をめざす

鹿大の新たな試み

教員相互の授業公開・授業参観制度がスタート
エネルギー削減に向けた取り組み

アラムナイ追跡隊

作庭家 古川 三盛さん

鹿大見てある紀

霧島リハビリテーションセンター

なんでも情報版「みみずく」

公開講座のお知らせ／鹿大初の女性学部長が誕生

鹿大教員がカンボジアで新属の魚を発見

桜島大根の優良系統作出に成功

産学官による「儲かる林業研究会」を設立

フィリピン大学ヴィサヤス校がリエゾン・オフィスを開設

「焼酎学講座」開設記念講演会を開催

オープンキャンパスのお知らせ

地域とともに

～鹿児島大学と地域の関わり～

特集





特集

地域と ともにも

〜鹿児島大学と地域の関わり〜

大学は、地域と無関係ではられない。大学はその知的財産を生かして地域と関係を持ち、ともに発展していくことが求められている。鹿児島大学も地域に根ざした大学を目指す中で、さまざまな取り組みを始めている。

地域に根ざした
鹿児島大学を目指して

「開かれた大学」という言葉が叫ばれて久しい。地域の知の拠点である大学は、大学が根ざす地域の自然・歴史・文化・産業・医療などに

関心を寄せ、地域とともに発展を目指していくことが望まれている。さらに「地方の自主性」が重視される今、地域における大学の役割の大きさは増すばかりである。同じことは、鹿児島大学にも求



められている。鹿大では、その教育・研究の成果を広く地域に還元し、地域の課題に即した研究や人材の養成を行い、地域に根ざした大学づくりを進めている。その一環として、生涯学習や社会人の再教育の機会提供、企業・自治体との連携による教育研究などにおいて、さまざまな制度や組織を整えている。鹿大は中期目標における「社会との連携に関する基本的目標」として、「地域における産業・文化・教育・医療の多種多様な要請に応えるとともに、産学官連携を推進し、

それらの発展に積極的に貢献する。さらに教育・研究両面で地域の文化中枢としての機能を強化発展させる」と宣言した。地域に貢献するためには、まず鹿大自らが地域と関わる機会を積極的に増やすことが必要だ。大学と地域の交流の機会が増えることで、新しい知恵や発想が生まれれば、さらに地域と大学が活性化していくことにもつながる。地域に根ざした大学を目指す、鹿大の地域との関わりの一端を教育面を中心に紹介する。



社会人 大学院 入学制度

●問い合わせ先
入試課入試企画係
TEL 099-285-7071
<http://kss.kuas.kagoshima-u.ac.jp/nyushi/nyu/daigakuin.htm#daigaku>

就職してからスキルアップやキャリアチェンジを目指す社会人にとって、近年、大学院は大切な再教育の場となりつつある。文部科学省が行っている平成17年度学校基本調査では、大学院に入学する社会人の数は、大学院全体の入学人数の17.7%という高い数字になっている。

こうした社会人の再教育という要望に応えるのが社会人大学院入学制度である。社会人大学院生になるには、「社会人特別選抜」という入学試験を受ける必要がある。入学後は大学院生として修士号、博士号の取得を目指す。夜間の時間帯にも講義を開講しており、社会人が受講しやすい環境が整っている。

現在、鹿大で学ぶ社会人大学院生は、88名(平成18年5月1日現在)。専門性の追求や自己啓発の場として目的に応じた研究科を選択すれば、働きながらの「自分磨き」ができるだろう。

科目等 履修生制度

●問い合わせ先
教務課教務係
TEL 099-285-7351
<http://kss.kuas.kagoshima-u.ac.jp/kyomu/kamokutorisyusei.htm>

「科目等履修生」とは、学外の方が単位取得を目的として鹿児島大学(学部・教育センター、大学院)の授業を受けられる制度である。

学部・教育センターの授業を受ける場合は大学入学資格のある方、またはこれと同等以上の学力を有する方、大学院の授業を受ける場合は大学卒業生、またはこれと同等以上の学力を有する方を対象としている。入学試験にあたるものはないが、書類審査がある。入学の時期は前期の始め(4月)、後期の始め(10月)の年2回となっている。受講が許可されると各学部や教育センター、または大学院の各研究科が定めた正規の授業科目の中から受講する科目を選んで鹿大生とともに授業を受け、一定以上の成績を修めれば単位が認定される。ただし、科目等履修生として修得した単位の積み重ねだけでは、学位の授与は行われない。

公開授業

●問い合わせ先
教務課総務係
TEL 099-285-7315
<http://www.life.kagoshima-u.ac.jp/jyugyou/jyugyou18.htm>

鹿大生が受講している正規の科目の一部を受講できるのが「公開授業」である。正規の科目を鹿大生と一緒に受けるため、受講人数に余裕がない科目や専門性の高い科目は公開されない場合もあるが、若い世代の学生と交流を持ちながら学べるという特徴がある。

科目等履修生とは異なり、授業を受けても単位の認定は行われないうが、授業回数(の三分の二以上)を受講した受講生には修了証が発行される。公開授業の受講生は、学術情報基盤センターのパソコンや附属図書館などの施設を一般の学生と同様に利用することができる。鹿大は総合大学のため、多くの専門分野の科目がある。さまざまな学習の目的に対して幅広く対応することができよう。大学での学習に関心を持った方には、科目等履修生への登録や学部・大学院への社会人入学など、本格的に学ぶ道も用意されている。

公開講座

●問い合わせ先
教務課総務係
TEL 099-285-7315
*詳細は本号13ページへ
<http://www.life.kagoshima-u.ac.jp/kouza/kouza17.html>

「公開講座」は、鹿大が独自のカリキュラムで一般の方を対象に開講する講座である。鹿大の教育研究の成果を広く社会に提供することを目的としており、毎年、約40の講座が用意されている。生活上・職業上の知識、技術や一般教養を身につけるための学習の機会として、あるいは生涯学習の機会として、学外の方がもっとも気軽に参加できるものの一つだろう。

講座の内容は総合大学の特性を生かし、専門性の高いものから一般教養、子ども向けの科学講座までと多岐にわたっている。受講資格はないが、内容によって受講対象者や定員が決められており、受講料も無料から数千円程度かかるものまでと、さまざま。本号13ページには今年度の公開講座の案内を掲載している。



大学院人文社会科学研究所 奄美サテライト教室

●問い合わせ先
法文学部大学院係
TEL 099-285-7504
(写真/奄美サテライト教室での授業風景)
<http://www.leh.kagoshima-u.ac.jp/hss/>



出前授業

●問い合わせ先
教務課大学院係
TEL 099-285-7346
(写真/鹿児島県立錦江湾高校での出前授業の様子)
<http://kss.kuas.kagoshima-u.ac.jp/daigakuin/index.htm>



稲盛経営技術 アカデミー

●問い合わせ先
稲盛経営技術アカデミー事務局
TEL 099-285-8329
(写真/政治評論家の森田氏による「稲盛セミナー」)
<http://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/users/kyocera/>



寄附講座 「焼酎学講座」

●問い合わせ先
研究協力課
TEL 099-285-3281
(写真/鹿児島県酒造組合連合会との協定書調印式)

地方の停滞を打破する方策の一つに人材育成がある。人文社会科学研究科の奄美サテライト教室も、この領域で地域貢献すべく、2004年、地元の強い要請を受けて旧名瀬市に開設された。開講される講義は、大学院の正規授業として単位認定される。本教室の目標は、奄美群島にたくさんの修士号をもつ人材を送りだすことであるが、目下は科目等履修生の受講が中心である。

今年、サテライト教室の科目等履修生から鹿大大学院に入学した赤塚嘉寛さんは「受講者が2、3人の講義でも先生方が朝早くから授業してくださるので驚いた。せっかくの機会だから多くの方に利用してほしい」と話す。2007年度からは、徳之島町で「奄美サテライト教室徳之島分室」の授業も始まる。鹿大の大学院教育は、島嶼地域において拡大し始めている。

「出前授業」は、本学の教員が高校へ出向いて授業を行うもので、「高連携」(高校と大学が連携・協力して行う教育活動)の一環として実施している。高校生に大学における高度な教育・研究成果の一端に触れさせる機会を提供し、学ぶことや研究の面白さ、生徒自身に自分の能力や適性に気づいてもらうねらいがある。また、大学に対する理解を深めてもらうための事業ともなっている。

本学ではさまざまな分野にわたる約130の授業科目を用意している。出前授業を希望する高校はこの中から科目を選び事前に申込を行い、その後、出前授業を担当する教員と授業内容などの調整を行い実施する。昨年度は県内外の27校で、延べ113名の教員が出前授業を行った実績がある。今後は、九州各県にまでその範囲を広げたい。

京セラ(株)の寄附講座である「京セラ経営学講座」を母体として、2005年4月に発足したのが「稲盛経営技術アカデミー」だ。鹿大工学部の卒業生である稲盛和夫氏(京セラ(株)名誉会長・KDDI最高顧問)の経営哲学をもとに、倫理・経営・技術・新産業創出のセンスを併せ持つ、地域から望まれる人材の養成を目指している。講義では鹿大の教員や稲盛氏、京セラ幹部に加え、地元企業からも講師を招き、常に経営の現場の最新情報を受講生に提供している。各界の著名人を講師に迎え、講師の生き方から人生哲学などを学ぶ取る「稲盛セミナー」は、高い評価を受けている。

アカデミーの授業は社会人にも広く門戸を開いている。起業や経営に関心がある人には、絶好の学習の機会となるだろう。受講するには科目等履修生か社会人大学院生として登録が必要となる。

「焼酎学講座」は今年4月に鹿児島県酒造組合連合会と鹿児島県から寄附を受け、農学部開設されたばかりの寄附講座である。焼酎製造技術を後継・開発する人材を育成するとともに、焼酎の歴史やその関連文化の体系化を目指す、国内唯一の焼酎専門講座だ。

農学部の生物資源化学科に「焼酎製造学研究室」と「醸造微生物学研究室」を置き、来年度から開講する。平成20年度からは大学院にも焼酎学講座を開講する計画である。鹿大の学生だけでなく、すでに焼酎業界で働いている社会人に対しても、焼酎に関連する技術や知的財産管理、品質管理、経営管理などを教える場となることを目指している。鹿大が県や同酒造組合連合会やその加盟各社といった地元産業界と協働して、地域の活性化を目指す好例といえるだろう。

国立鹿児島工業高等専門学校(鹿児島高専)で技術職員として働いています。技術職員は教員の実験・実習の補助が主な仕事ですが、「測量実習」「材料実験」「水理学実験」などの授業では、私が生徒に教えることもあります。

生徒に教えているうちに教職への興味がわいてきたのですが、高専の教員になるには博士号が必要だったため、大学院への入学を考えるようになりました。また、生徒に教えることで、自分の問題点や疑問がはっきりしてきて、勉強し直す必要性を感じたというのも入学の理由の一つです。現在は、仕事を続けながら、大学院に通い始めて2年目になります。

大学院では「侵食されている海岸の砂の移動」に関する研究を行っています。受け身だった学生時代と違って学ぶ目的がはっきりしているため、勉強するにも張り合いがあります。講義はマンツーマンや少人数での指導ですから、気軽に質問できる雰囲気がありますね。仕事と学問の両立は大変ですが、私の仕事の都合によっては休日に授業をしてくださることもあり、とても有り難いです。



理工学研究科
海洋土木工学専攻
博士前期課程2年
長山 昭夫さん

働きながら博士号の取得を目指しています

社会人大学院生の声



公開授業受講生
後藤 映子さん

一言も聞き逃せない
内容のある講義ばかりです

昨年、仕事のストレスで体調を崩したことから、自分の心のことを深く考えるようになり、本やパソコンで心の問題などについて調べていました。そのうち、心理学や哲学などへの興味も増えいき、より深く学びたいと考えるよう

になりました。そういう時期に鹿大の公開授業のことを知り、今年4月から週に2日、公開授業受講生として登録しました。前期は「児童心理学」「楽しい授業と教育の諸問題」「教育心理学概説」「障害児心理学概論」を受講しています。

大学の授業はとても楽しいです。興味のある分野について知識が深まると、さらに興味が増えます。授業で教えてくれることに無駄なことはありません。余談であっても授業の趣旨を踏まえて、学ぶことが多いです。一言も聞き逃せない、中身のある講義ばかりですよ。公開授業を受けたいと考えていらっしゃる方には、興味を持った授業はどんどん受けてみてください、と勧めたいです。

後期も公開授業を受講する予定です。心理学、宗教学、哲学、精神学などを全般的に学びたいため、将来は大学に進学できればと考えています。大学の雰囲気がつかめるという点で、公開授業の意義は大きいと思います。

公開授業受講生の声

施設の一般開放 ～鹿児島大学の貸し出し施設について～

鹿児島大学では、大学内の一部の施設の貸し出しを行っています。利用を希望される方は下記連絡先までお問い合わせください。

稲盛会館

工学部経理係 TEL 099-285-7701

稲盛会館の利用案内

<http://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/%7Ejimu/inamori.html>

会議室・講義室など

教育センター総務係 TEL 099-285-8821

法文学部経理係 TEL 099-285-7521

教育学部経理係 TEL 099-285-7892



稲盛会館

世界の論文引用回数 トップ2500にランクイン

学術雑誌のインパクトファクターで有名な米国ISI社が公表しているISI Highly Cited Researcherというランキングがある。生命科学、医学、自然科学、工学、社会科学の分野で過去20年間に発表された全論文の引用回数を調査し、21の分野ごとに引用された回数が世界で上位の2500人をインターネットで公表したものだ。

その中の微生物学分野に名を連ねるのが、馬場昌範教授(医歯学総合研究科附属難治ウイルス病態制御研究センター・抗ウイルス化学療法研究分野)である。ウイルス学が専門の馬場教授は、エイズウイルス(HIV)の研究において次々と実績を上げており、その研究はランキングが示すように、世界中の研究者から注目を集めている。

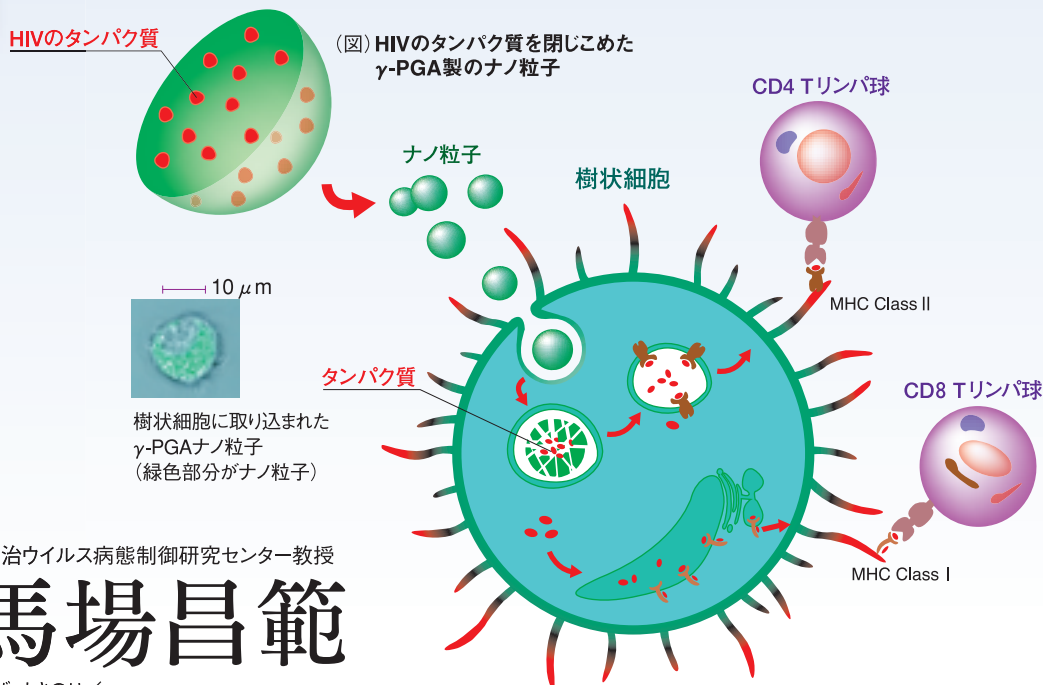
ナノ粒子による エイズワクチン開発

現在進めている研究の一つに、「ナノ粒子を応用した抗レトロウイルスワクチンの開発」がある。大阪大学の明石満教授が開発した納豆

本学のユニークな研究紹介

ナノテクノロジーで エイズワクチン開発をめざす

エイズのワクチン開発に取り組む馬場昌範教授。その研究は世界から注目されており、これまでの論文の引用回数も世界トップレベルだ。最新の研究内容を紹介する。



難治ウイルス病態制御研究センター教授 馬場昌範

ばば・まさのり/
1954年大阪府生まれ。福島医科大学大学院修了。ルーヴァン・カトリック大学レガ医学研究所などを経て94年から現職。06年4月から鹿児島大学学長補佐(将来構想担当)も務める

*2 ISI Highly Cited Researcher
URL <http://isihighlycited.com/>

*1 インパクトファクター
学術誌に掲載されている1論文あたりの引用回数の平均値。数値が高いほど、影響力のある論文を収録した学術誌とみなされる。学術誌の認知度や科学的信頼性を評価する指標として広く利用されている



ウイルスを使った実験は、安全性が確保されたレベルP3実験室で行う。実験室内は外と比べて気圧が低く保たれており、室内の空気が外部に漏れない構造になっている

のネバネバの成分であるγ-ポリグルタミン酸(PGA)を素材としたナノ粒子を使い、エイズワクチンの開発を目指す研究だ。

HIVのタンパク質を閉じこめた200ナノメートルのγ-PGAナノ粒子を、マウスの鼻に投与したところ、HIVを攻撃する抗体だけでなく、ウイルスに感染した細胞を攻撃する「細胞性免疫」も現れることが明らかになった。

強力な細胞性免疫と ナノ粒子の役割

ただ、HIVのタンパク質だけを投与しても細胞性免疫は現れない。タンパク質をγ-PGAナノ粒子に閉じこめた状態で投与して初めて、免疫の司令塔である樹状細胞がその粒子を取り込み、非常に強い細胞性免疫が現れるのだという(国際特許申請中)。このナノ粒子を利用したワクチンが完成すれば、細胞性免疫によってエイズの進行を止める効果のある「治療ワクチン」ができるのでは、と馬場教授はみている。

γ-PGAナノ粒子は体内で分解されるため、人体に悪影響を与えることはない。また、γ-PGAナノ粒子だけを投与した場合でも免疫の高まることが分かり、研究室ではその分子メカニズムの解明も進めている。

今年度中には京都大学ウイルス研究所の三浦智行助教授の協力を得て、サルを使った感染実験を行う予定だ。良い結果が得られれば、エイズワクチン実用化に弾みがつく。研究成果をHIVと異なる種類のウイルスが原因となる病気にも、応用できるかもしれない。

「医工連携」でATLの 治療法開発へ

馬場教授は鹿大の理工学研究科や工学部と共同で、世界の中で鹿児島など南九州に発症者が多いとされる「成人T細胞白血病(ATL)」の研究も行っている。

ATLの原因となるウイルスは、HTLV-1というHIVと同じレトロウイルスの仲間である。HTLV-1を長年研究し成果をあげている歯学総合研究科と、糖鎖分析や蛋白質工学のエキスパートがいる工学部が「医工連携」し、糖鎖に着目した新しい治療法を探るといふものだ。

馬場教授は医学部だけでなく、工学部の学生に対してもウイルス学の講義を行っている。「医学だけでなく他分野の素養もある、マルチポテンシャルな若い人を育てたい。他分野の力を借りれば、研究の可能性がより広がるはず」と馬場教授は話す。

HIV感染予防のための 啓発活動

馬場教授は福島県立医科大学大学院(医学研究科博士課程・細菌学

専攻)を修了後、内科の勤務医を経て、1986年にベルギーのレガ医学研究所の研究員となった。ここでHIVの研究を始め、現在までその研究を続けている。HIVの発見が1984年であることを考えれば、馬場教授は、人間とHIVとの闘いの歴史に立ち会ってきたといえるかもしれない。

「ウイルスに効く薬なんてできっこないと言われた時期もありましたが、二十歳そこそこで頭が柔らかかったし、できるかもしれないと考えてやってきた。でもHIVは手強いですね」と馬場教授。

鹿児島でもHIV感染者は増えつつある。日本エイズ学会の理事を務める馬場教授は、「鹿児島HIV感染症研究会」の代表世話人も務め、HIV感染予防のための啓発活動に力を注いでいる。今年には市民を対象としたエイズに関するシンポジウムを開きたいと考えている。

鹿児島大学大学院
歯学総合研究科附属
難治ウイルス病態制御研究センター
(抗ウイルス化学療法研究分野)
〒890-1854
鹿児島市桜ヶ丘8-135-1
TEL 099-1275-1593
FAX 099-1275-1593

*4 ナノメートル

ナノ(nano)は10億分の1を表す接頭語。1ナノメートルは1メートルの10億分の1、1ミリメートルの100万分の1の大きさである

*3 「ナノ粒子を応用した抗レトロウイルスワクチンの開発」

独立行政法人科学技術振興機構(JST)の戦略的創造研究推進事業(CREST)の研究課題の1つ。大阪大学大学院工学研究科の明石 満教授(元鹿児島大学大学院理工学研究科教授)、大阪大学大学院薬学研究科の中川晋作教授との共同研究となっている。昨年10月の中間評価では「今後の展開によっては、当初計画を大きく上回る成果が期待出来る」と、高い評価を得た



授業公開・授業参観制度によって
公開された「水圏生態学」の授業



授業を見学する教員たち

教員相互の授業公開・ 授業参観制度がスタート

教員が自らの授業を公開するとともに、同僚の授業を参観し、お互いの優れた点を取り入れて教育の質を上げようとする「教員相互の授業公開・授業参観制度」が、今年度から全学的に始まった。



授業後の懇談会の様子

教員同士の授業の公開と見学

今年度から始まった「授業公開・授業参観制度」は、それぞれの教員が、年に一度、あるいは2年に一度は自らの授業を公開するとともに、お互いの授業を参観するものである。自分の授業の良い点、改善すべき点、他の科目と自分の担当する科目との関連を意識し、お互いの授業の優れた点を取り入れることで、大学全体でより質の高い授業を目指そうとする画期的な試みだ。

この制度は、2005(平成17年)7月に開催された教育研究評議会での「鹿児島大学のすべての教員が授業公開に取り組むことを原則的な義務とする」という決定に基づくものである。実施の中心的な役割を担う全学FD委員会委員長の根拠心具教育センター長は、「この試みを成功させることによって、『教育の自由』という言葉だけが一人歩きしている従来のイメージを払拭し、教員相互の研鑽の仕組みを作る場」に発展させていきたい」と語る。実際に行われた授業公開・授業参観の例を見てみよう。

体験を踏まえた意見交換

今年5月に行われた水産学部の「水圏生態学」(鈴木廣志教授)では、

90分間の授業の後、授業を参観した教員と公開した教員で懇談会を行った。

懇談会では、「授業のレベルをどのレベルの学生に合わせるべきか」といった問題提起があったり、「パワーポイントをうまく利用しており、分かりやすく説明も丁寧」「他の科目との関連を学生に気づかせたほうが良い」などといった意見が交わされた。また、授業を公開した鈴木教授からは、「他の先生がどんな授業をしているか、もっとお互いの授業を見せてもらって学びたい」といった感想が出た。教員同士が授業の進め方に関する悩みを相談したり、参観者も自らの授業の経験を踏まえた意見や改善方法を率直に述べる建設的な意見交換の場となっているようだ。

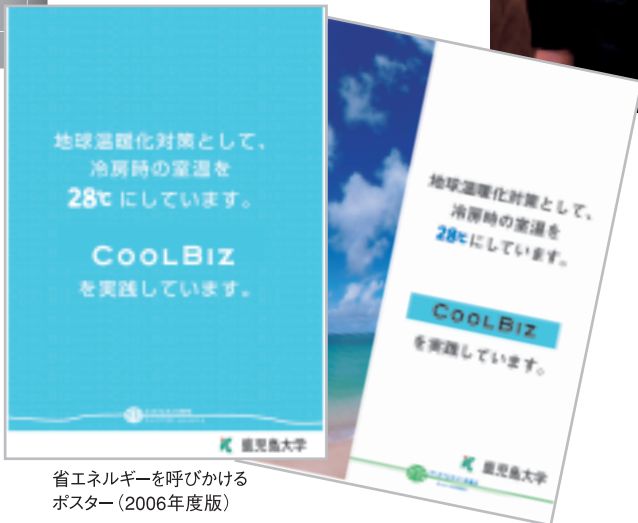
他の教員に授業を見せることに抵抗を覚える教員もいる。だが、授業公開・授業参観は批判のためのものではない。授業を参観した教員からは「学生を飽きさせないさまざまな工夫が授業には必要。難しいこともあるが、それは他の先生方の授業を見ることで自ずと解決できるのでは」という声も聞かれた。大学全体の教育の質を高める切り札として、今後、この制度の役割は増していくことだろう。

「エネルギー管理優良工場等（電気部門）九州産業局長表彰」の表彰状。
右から、鉾之原昌理事（財務・環境・医療担当）、永田行博学長、佐藤政弘施設部長



エネルギー削減に向けた取り組み

鹿大は国立大学法人では初の「エネルギー管理優良工場等（電気部門）九州経済産業局長表彰」を受賞した。受賞理由と鹿大が行っているエネルギー削減のための取り組みを紹介する。



省エネルギーを呼びかけるポスター（2006年度版）

省エネ対策で九州経済産業局長表彰を受賞

鹿児島大学郡元キャンパスは、「平成17年度九州地区省エネルギー月間表彰式」（九州経済産業局・財団法人省エネルギーセンター九州支部・九州地方電力利用効率化協議会主催）において、「エネルギー管理優良工場等（電気部門）九州産業局長表彰」を受賞した。2006（平成18）年2月に福岡市で授賞式が行われた。エネルギー管理優良工場等表彰は「エネルギーの使用の合理化の推進（省エネ）」に寄与している工場や事業所、功績者を表彰することにより、エネルギー管理の一層の普及促進を目指す表彰制度で、同賞の受賞は、国立大学法人として初めての快挙である。

鹿大では、「エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）」に基づき、独自の「エネルギー管理標準」を定め、学長をトップとしたエネルギー管理組織の主導で大学全体で省エネルギー活動に積極的に取り組んできた。さらに毎年計画通りに年平均1%以上のエネルギー消費を削減できているという実績が、今回の受賞につながった。

全学で地道な省エネルギー対策を実施

具体的な省エネルギー対策としては、冷暖房の設定温度を調整、こまめな消灯といった各家庭でも実践できるような方法が挙げられる。さらに、人の動きなどを検知して照明のスイッチのON/OFFを行う人感センサーなどの省エネ型設備への更新、各部屋の冷暖房の設定温度やスイッチのON/OFFが操作できる集中コントローラーの採用といった設備面での対策も行っている。各建物の毎月の電気使用量比較表を作成公表し、教職員和省エネに対する意識啓発も進めている。

一層の省エネルギー、省資源化を目指して

今年度から全国の国立大学法人に対しては、環境報告書を公表することも義務づけられた。鹿大は2006年1月、「鹿児島大学環境方針」を大学ホームページで公表し、大学としての地球環境保全の方針を明確にしたところである。これからも一層の省エネルギー、省資源化に大学全体で取り組んでいく。

interview

Mitsumori FURUKAWA

和服は学生時代から愛用していて
今日、日常のほとんどを和服で通している。
写真の古川さんが締めているのは自作の帯。
「これはデニムです、ジーンズ生地の。漂白剤で色を
抜いたの」と古川さん。遊び心あふれる着こなしが、
よく笑う飾らないお人柄と重なる
(京都府向日市にある古川さんの自宅にて)



焼失した前本堂の礎石に刻まれた十字を
星座に見立てて配置した浄教寺の庭



矢田寺は独立したころ、森籙氏から任され
た仕事。今では「紫陽花寺」として有名

※「アラムナイ」とは英語で同窓生のこと。
各界で活躍する鹿児島大学の卒業生や留学生などのユニークな活動を紹介します。

「ブラウンカラー」になってやると開き直りました

4年間は思いきり「自分探し」

高校時代、何になっただけならいいかというのがさっぱり分からなかったけど、庭を教える大学があると聞き、初めて庭師を意識したんです。でも、庭師になると言ったら、親や先生たちは大反対。仕方なく理科室でさえあれば納得するだろうと思い、農芸化学科を選びました。

文芸部と茶道部と園芸研究会に入って、4年間は思いきり、今の若い人が言う「自分探し」(笑)。お茶の先生になりたいと考えたこともあったくらい、茶道は面白かったですよ。よい先生にもめぐり会えて。大学時代は、庭のことは忘れ、何となくこのまま農芸化学の道に進むのだろうな、と思っていました。

見る前に跳ぶということ

ずっと景気が良かったのに、私たちの卒業のときだけ景気が悪く、勉強もしてなかったから、試験を受けたって簡単に就職できる状況じゃない。担当の品川昭夫助教授は「大卒だといって全員ホワイトカラーになれるとは限らない。何パーセントかはブルーカラーに。

そんな時代が来る」と言われました。

「それならいっそのこと自分から『ブラウンカラー』になってやろう」と開き直りました。私にとつて「ブラウンカラー」とは日焼けした肌の色であり、屋外での肉体労働から人生のスタートを考え直してみることでした。庭師になると決めたのは、卒業の3カ月前のこと。本当に運命的でした。

大江健三郎の『見るまえに跳べ』じゃないですけど、見る前に跳ぶということを誰もいっぺんはしたほうがいい。私は自分で跳んだというより、運命に背後を突かれてのことでした。

「庭」は、自分に合っていたと思います。国立大の理科室ですから、

何しろそれまでの職人と違い、仕事を覚えるのは早かった。石一つ動かすのも力学ですからね。当初は、樹木の剪定や掃除などといった庭の手入れは付け足しの仕事にしか思えなかったのですが、手入れこそ大事な仕事だということがだんだんわかってきました。悪い庭も、手入れ次第で良くなります。

最終的に面白いのは人間

就職した北九州の造園屋では基本的な技術が学べて良かったのですが、それだけでは単純で、1年も経つと面白くなくなり、辞めたくなりました。しかし同じ辞めるなら本場を見てから、と思い、故西田政善先生の紹介で京都へ行けるようにしてもらいました。

京都では森蘊^{*2}先生の仕事を請け負っていた造園屋に入りました。当時は森先生の名前も知らなかったけど、運良く日本でも指折りの先生から学べたわけです。森先生の庭は、違っていました。それまでの庭では、石が一つずつ、「この石はどうだ、いいだろう」と個々に並べられているだけ。それが躍動し



大学時代の古川さん。上荒田の下宿にて



作庭家

古川 三盛さん

● profile

1943年福岡県小倉市(現北九州市)生まれ。1967年鹿児島大学農学部農芸化学科を卒業後、北九州市の菅原清風園に就職。その後、京都で森蘊氏に師事。徳村造園(京都市)を経て1970年に独立。社寺の庭から個人宅の庭まで幅広く手がける。代表的な仕事に矢田寺(大和郡山形市)、寂庵(京都市)、今西家書院(奈良市)、浄教寺(奈良市)、観心寺(河内長野市)、天上寺(神戸市)など。著書に『庭の憂』(善本社・1997)。京都教育大学非常勤講師。

ているんです。まるでモーツァルトの音楽を聴いているかのよう。

納得のいく庭を造るのは当然として、庭の向こう側の人間が興味深い。どんな仕事も、究極はそうだろうと思う。庭を媒体にしてどんな人間と出会えるか、どんな同時代ゲームができるか。面白いのは人間であり、それ以上のものを庭は求めてはいないと思えます。

*1 西田政善

元鹿児島大学名誉教授(造園学)。古川さんらが創設した鹿児島大学学友会裏千家同好会「石笑会」の顧問だった

*2 森蘊

もり・おさむ。1905年東京生まれ。日本庭園史研究の第一人者。1968年庭園文化研究所を設立。全国の庭園の設計・施工を指導し、名園の修復も手がけた。1988年没



ゆったりとした明るい霧田気の訓練室



麻痺した手指の機能を回復させる
「促通反復療法(川平法)」



工学部と共同開発した
「軌道追従訓練装置」

豊かな自然に囲まれた高水準のリハビリ医療専門病院

霧島リハビリテーションセンター(センター長・川平和美教授)は、霧島温泉郷の中にある鹿児島大学病院のリハビリ専門病院です。昭和63年に国立大学初のリハビリテーション医学講座(現・運動機能修復学講座機能再建医学分野)に対応する診療部門として霧島分院が改組され、現在に至っています。リハビリテーション専門医8名、理学療法士5名、作業療法士4名、言語聴覚士1名が患者さん一人ひとりに合わせた高水準の治療やリハビリにあたりています。

センターでは、鹿大工学部と連携してリハビリのための装置の開発を行っています。また、麻痺がある部位に刺激を与えて神経回路を強化する「促通反復療法(川平法)」など、新しいリハビリ法も開発し、成果を上げています。

こうした成果を社会にも広めようと、実習・見学者の受け入れや公開講座に取り組んでいます。旧霧島分院時代の昭和59年から実施しているリハビリテーション医学の実践に関する公開講座では、県内外へセンターの医師たちが足を運び、リハビリ法の実践・普及に努めています。

今後は工学部とのリハビリ法の開発や地域との連携をさらに進め、少しでも回復する可能性のある患者さんを早期に、タイミングよく受け入れられる体制を整えていきます。



● 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
霧島リハビリテーションセンター
〒899-6603 鹿児島県霧島市牧園町高千穂3930-7
TEL 0995-78-2538(代表) FAX 0995-78-8390
E-mail kiririha@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp
ホームページ <http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~rehabil/index-j.html>

<診療時間>

外来診療日 月・水・金
特殊再来日 火・木
休診日 土・日・祝祭日・年末年始
受付時間 午前8時30分～午後3時
診療時間 午前8時30分～午後5時

<診療内容>

- 脳卒中片麻痺、脳脊髄損傷、リウマチ・骨折などの骨関節疾患、パーキンソン病、アルツハイマー型痴呆、気管支喘息、心不全などの診断・治療およびリハビリ
- 高血圧症、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病の予防と治療
- 内科的疾患の診断や治療、CT、心エコー、腹部エコー、嚥下造影検査、膀胱機能検査など





▶ 公開講座のお知らせ

鹿児島大学では、今年度も一般の方々を対象にした、多くの公開講座を実施します。皆様の受講をお待ちしております。詳細のお問い合わせ・お申し込みは、それぞれの実施部局までご連絡ください。

講座名	問い合わせ先	開催期間	時間数	講習料	受講対象者	募集人員	開催場所	
日本国憲法の現在	法文学部経理係 099・285・7521	8/19～9/16 14:00～16:00	10	4,000	市民一般	50	総合教育研究棟	
子ども理解と望ましい関わりを求めて	教育学部 大学院係 099・285・7741	7/20～7/28 の3日間 9:30～16:00	12	無料	幼児・小中学生の保護者 および学校教育関係者	50	始良町中央公民館	
学校カウンセリング基礎セミナー		8/7～8/9 9:00～16:20	18	7,600	現職教員を中心とした 教育関係者	60	鹿児島大学	
学校におけるコンピュータの活用		8/2～8/4 9:00～16:20	18	7,600	現場教員等の 教育関係者	35	鹿児島大学	
Active Aging リハビリテーションからケアまで(牧園町)	医歯学総合研究科 庶務係 099・275・6015	8/6 9:00～16:30	6	5,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	100	霧島リハビリテーション センター	
高齢者の介護 (脳卒中と骨そしょう症に対して)		8/26 13:00～17:30	4.1	5,000	看護師、介護福祉士	40	医学部保健学科	
Active Aging リハビリテーションからケアまで(鹿児島市)		9/10 9:00～16:30	6	5,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	100	医学部鶴陵会館	
ALS患者の在宅療養支援		9/16 9:30～17:00	6.5	5,400	看護職者	45	医学部保健学科	
Active Aging リハビリテーションからケアまで(那覇市)		11/26 9:00～16:30	6	5,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	100	共済組合自治会館	
歯科治療時の偶発症(ヒヤリ・ハット) について考える		2/18 13:00～18:00	5	5,000	歯科医師、歯科衛生士、 歯科技工士、歯科医療関係者	50	始良郡歯科医師会館	
第3種電気主任技術者試験 受験対策講習会		工学部総務係 099・285・8216	8/7 9:00～18:20	8	2,100	工業高校および 大学の電気系の学生	15	工学部中央実験工場
コンピュータを使ったモノづくり体験			8/8 10:00～17:00	6	無料	高校生・高専生	20	工学部中央実験工場
海岸へ行こう	水産学部総務係 099・286・4016	10/14～11/5 の間に開講予定 9:00～17:00	7	無料	小学生 (低学年生は保護者同伴)	30	鹿児島県内の海岸	
漁の技術		8月～9月頃 13:00～15:00	2	無料	漁業関係者	20	水産学部	
第4回身の回りにある放射線を 目と音で捉える学習 ※1	フロンティアサイエンス 研究推進センター ※1・2 099・285・3594 ※3 099・275・6357	8/2 13:00～17:00	4	無料	小・中学生および保護者	20	フロンティアサイエンス 研究推進センター	
小・中学校教員を対象とする放射線教育 ※2		夏休み中(未定) 10:00～17:00	6	無料	小・中学校教員	30	鹿児島大学	
鏡視下手術市民公開講座 ※3		3月と10月 (予定)	1～2	無料	市民一般	100	鹿児島大学および 県民交流センター	
科学館で夏休み 親子孫夫婦でたのしい仮説実験講座	生涯学習 教育研究センター 099・285・7294	8/16～8/19 10:00～11:30	6	3,200	小学生以上の子どもと その保護者	40組	市立科学館	
夏休み 親子孫夫婦でたのしい仮説実験講座		8/24～8/27 10:00～11:30	6	3,200	小学生以上の子ども とその保護者	50組	生涯学習教育研究センター	
分子模型づくり講座(初級)		10/28、11/25、 12/16、1/27 10:00～11:30	6	3,200	小学3年生～中学生と その保護者	12組	生涯学習教育研究センター	
冬休み 親子孫夫婦でたのしい仮説実験講座		1/6～1/7 10:00～11:30	3	2,600	小学生以上の子どもと その保護者	30組	生涯学習教育研究センター	
親子で冒険 かごしまの海と山		8月の2日間 9:30～16:30	14	4,800	小学4年生以上の子どもと その保護者	30	高隈演習林、錦江湾	
鹿児島探訪		9/2、9/9 13:00～16:30	7	3,400	市民一般	100	かごしま県民交流センター	
鹿児島 焼酎ものがたり		9/16、9/23 13:00～16:30	7	3,400	市民一般	100	かごしま県民交流センター	
親子でリサイクル博士		8月の3日間 10:00～12:00	6	3,200	小学4年生以上の子どもと その保護者、中学生	12組	生涯学習教育研究センター	

▶ 鹿大教員が カンボジアで新属の魚を発見

総合研究博物館の本村浩之助教授らは、カンボジア中央に位置する東南アジア最大の淡水湖トンレサップ湖でネズッポ科魚類の新属新種を発見しました(写真)。平成18年3月に発表した論文で、トンレサップ湖、および長年同湖の地質学的研究を行っている塚脇真二金沢大学助教授(鹿大卒)を語源とする *Tonlesapia tsukawakii* (トンレサビア ツカワキアイ) と命名されました。

ネズッポ科魚類は世界で約180種が知られており、すべて海で生活しています。今回の新属新種は純淡水域からの初めての発見であり、魚類の進化と同湖の生物多様性および生態学的特異性を考える上でも貴重な発見です。

近年の急速な環境汚染や外来魚などの影響で、同湖に生息する多くの魚種は絶滅の危機に瀕しています。分類学的研究を通し、各種の生物学的特長を明らかにした上での生態系保全が急務となっています。



カンボジアから発見された *Tonlesapia tsukawakii*。体長3.4 cm



木部暢子法文学部長

▶ 鹿大初の女性学部長が誕生

今年2月の法文学部長改選の結果、人文学科人間科学講座の木部暢子教授が学部長に選出されました。任期は2006年4月から2年間です。

木部学部長は北九州市出身。日本語方言学が専門で、88年に鹿児島大学法文学部助教授として就任後、99年に教授となり、04年からは副学部長として学部の運営に携わってきました。鹿児島県文化振興会議委員や鹿児島県文化財保護審議会委員も務めています。

「女性だから、という意識は特にありませんが、女性の先生方や職員の方から『元気をもらった』という声を聞き、そういう意味で役に立っているのかな、と思います」と木部学部長。「今後は、学内外のいろいろな仕事を個々の教員の研究にうまく結びつけられるような形のプロジェクトチームをつくりたい。学生の皆さんには、大学の外に向かってもっと視野を広げてほしいですね」と話してくださいました。

▶ 桜島大根の優良系統作出に成功

農学部の衛藤威臣教授は鹿児島市都市農業センターとの共同研究で、平成18年2月、世界一大きな大根として知られている桜島大根の優良系統(F₁: 雑種第一代)作出に成功しました。

衛藤教授は農家から種子を譲り受け、鹿児島大学で4代、更に、都市農業センターで2代、選抜、栽培を繰り返し、幾つかの遺伝的に純粋な系統(純系)を得ました。平成17年春、系統間で交配し、得られた交雑種子(F₁)を秋に播種し、栽培したところ、翌年2月、10kg程度の立派な桜島大根が出来ました。親の組合せが良かったため、優良なF₁の特徴、そろいと強さ(雑種強勢)が現れました。

従来、桜島の農家では、株は選抜しても、自然授粉なので純系はなく、大根は不揃いでした。今後は、農家向けの採種体系作りが期待されます。



作出されたF₁の桜島大根

▶ フィリピン大学ヴィサヤス校が リエゾン・オフィスを開設

鹿児島大学水産学部のキャンパスに、同学部と
学術交流協定を締結しているフィリピン大学ヴィサ
ヤス校の日本オフィスが平成18年4月に開設されまし
た。水産学部のフィリピン・オフィスは既に平成18年
2月にヴィサヤス校のミヤガオ・キャンパスに開設され
ています。学術交流協定大学とリエゾン・オフィスを
相互に開設するのは、鹿児島大学としても初めてです。
研究室と実験室を併設したオフィスには、フィリピン
から新たに採用された助教授が常駐しており、水産
資源管理や水圏環境の管理・保全に関する共同研
究の拠点となるものと期待されています。

さらに水産学部では、「水圏環境の保全と管理」
を主なテーマとした、東南アジア研究教育拠点形成
という国際的な事業も開始されており、今後の展開
が内外から期待されています。



日本オフィス開所式にて。
右から松岡達郎水産学部長、エメルリンダ・R・ローマン フィリピン大学
総長、永田行博学長、アギユラ・グレン フィリピン大学ヴィサヤス校学長

▶ 産官学による 「儲かる林業研究会」を設立

「林業は不振ですね、国産材は販売が難しい・・・。」
何回も繰り返されてきた嘆き節を止めよう。20%足ら
ずになった我が国の木材自給率を取り戻し、林業・
林産業が持続的産業になるには、どのような課題・
問題点があるのか。産官学、林業・林産分野が結束
し、課題克服と問題解決のために基本から見直そう。
このような目的で鹿児島県を主な対象地域とする「儲
かる林業研究会」（会長：農学部・竹内郁雄教授）
が2005年11月に発足しました。

145名の会員は、育林・素材・施業集約・製材流
通の4分科会に所属して実質的論議を行い、全体
研究会では、各分科会からの抽出課題と他分科会
への要望課題を調整し、課題克服を目指しています。
研究会は、学生会員も歓迎します。参加希望者は農
学部・寺岡行雄助教授（事務局長）TEL 099-285-
8574までご連絡下さい。



豊かな資源利用と森林機能を高めるために

▶ 「焼酎学講座」開設記念講演会を開催

2006年度から寄附講座「焼酎学講座」が農学部
に設置されたことを記念し、5月24日、鹿児島大学
稲盛会館で「焼酎学講座」開設記念講演会が
開催されました。

同講座は、産学官が連携して焼酎製造技術を
後継・開発する人材を育成するとともに、
焼酎の歴史やその関連文化の体系化を目指す、
国内唯一の焼酎専門講座です。

講演会では、鹿児島大学客員教授の小泉武夫
東京農業大学教授が「焼酎の世界戦略」と題
して記念講演を行いました。「今やドイツの
小さな村にも醤油が並ぶ時代。焼酎の世界進
出も不可能ではない」とし、「焼酎には中国や
アメリカで受け入れられる要素がある。そこ
を突いた世界戦略を5年以内につくる」とアイ
デアを披露。講座への関心の高さを示すか
のように、当日は一般からの参加者も多く訪
れ、会場は熱気に包まれました。



記念講演を行う小泉武夫 東京農業大学教授

OPEN CAMPUS

■ オープンキャンパスのお知らせ

各学部で学部説明会、研究室公開や模擬授業を行います。
高校生、保護者、先生方の参加をお待ちしています。

鹿大なんでも情報版
Kagoshima University
Information



- 定員が定められている企画では参加者を調整することがありますので、事前に参加したい学部へ「各学部参加申込書」により直接お申し込みください。
- 実施時間等の詳細については、各学部にお問い合わせ下さい。
- また、本学HP (http://kss.kuas.kagoshima-u.ac.jp/nyushi/nyu/opencampus/open-campus/op_top.htm) を参照してください。
- 台風等で予定日に実施できなかった場合、8月17日・18日に実施しますが詳しいことは決まり次第、ホームページ上に掲載します。

学部 (問い合わせ)	実施日	会場	企画名
法文学部 ☎099-285-7525	8/4(金)	法文学部 講義室など	●学部説明会(400名) 模擬授業3科目…●「法(法律)についてもう一度考えてみよう」(150名) ●「いつでもどこでもなんでもネットワークにつながる世界」(200名) ●「行動環境を理解する—知覚の基礎—」(200名)
教育学部 ☎099-285-7713	8/4(金)	教育学部 講義室など	●学部説明会、模擬授業7科目…●「たのしい授業への招待」(300名) ●「オーブントースターと電気パン焼き器、どっちがお得?」(100名) ●「木材の七不思議七変化」(30名) ●「英語っぽさの秘訣:リズムを体で!」(100名) ●「環境地図のはなし」(100名) ●「障害者理解の旅」(100名) ●「こころのふしぎ」(100名)
理学部 ☎099-285-8025	8/3(木) 8/4(金)	理学部 講義室など	3日 地球環境科学科(50名程度)…「水の環境科学」、「干潟の生きものたち」、「大地は動く—地殻変動のお話—」、「化石に触れてみよう、鉱物を顕微鏡で観察してみよう」 4日 数理情報科学科(90名)…「べきと階乗べき」、「計算機教室での体験実習」 物理科学科(40名程度)…「体験物理学」、「体験宇宙観測」 生命化学科(50名程度)…「研究室見学と体験学習」、「ポスターパネル展示会」
医学部 ☎099-275-6721	8/4(金)	医学部 講義室など	●学部紹介・学科紹介 ●入試要項説明 ●施設見学 など
歯学部 ☎099-275-6040	8/4(金)	歯学系 第1総合示説室	●学部紹介 ●入試説明会 ●プロモーションビデオ上映 ●研究室・附属病院見学 など
工学部 ☎099-285-8232	8/4(金)	稲盛会館など	●学部紹介 ●各学科紹介 ●「第8回テクノファクトリーへの招待」(250名程度) ●各学科の「体験講義A」および「体験講義B」
農学部 ☎099-285-8531	8/3(木) 8/4(金)	農学部 講義室など	●「エコ探検隊」(3日:5コース、4日:5コース) ●「バイオ探検隊」(3日:1コース、4日:1コース) ●「アグリ探検隊」(3日:2コース、4日:3コース) ※各コースに定員があります。
水産学部 ☎099-286-4040	8/3(木)	水産学部 講義室など	●学部紹介 ●乗船体験 ●「魚のとりにかたコース」(10名) ●「水圏における生物多様性 海洋生物学入門コース」(20名) ●「海の微生物とその遺伝子の観察コース」(15名)

◎鹿大ジャーナル/第172号 平成18年7月発行 編集発行 鹿児島大学広報委員会 〒890-0050 鹿児島市都元 丁目21番24号 電話099-285-7035 FAX099-285-7034 E-mail sbunsho@kuas.kagoshima-u.ac.jp

九州地区国立大学進学説明会
同時開催
実施日時: 8/4(金) 10:00~16:00
開催場所: 鹿児島大学郡元南食堂(教育学部キャンパス内)
問い合わせ先: 鹿児島大学学生部入試課 ☎099-285-7061

参加大学(個別相談ブースを設置する大学)
各国立大学の入試関係の教職員が、参加者からの相談・質問などにお答えします。
長崎大学、佐賀大学、熊本大学、宮崎大学、鹿屋体育大学、琉球大学、山口大学、鹿児島大学(学部毎に設置します。但し、歯学部は除く)

▶ **行事予定 (2006年8月~11月)** どなたでも参加できます。皆様方のご来場をお待ちしております。

<p>第3回「夏休み子ども見学デー」 8月23日(水) 鹿児島大学中央図書館 お問い合わせ▶情報管理課総務係 ☎099-285-7415</p>	<p>第8回「鹿児島大学附属図書館貴重書公開」 10月18~22日 鹿児島大学中央図書館 11月17~19日 指宿市考古博物館COCCOはしむれ お問い合わせ▶情報管理課学術コンテンツ係 ☎099-285-7445</p>
---	--



(表紙写真)

●大学へ行こう!
地域から必要とされる大学を目指して、生涯学習の機会提供、社会人の再教育、地元企業や自治体と協働した教育・研究など、鹿大では多くの取り組みを進めている。大学が自ら地域に関わろうという姿勢を持つことで、そこから新しい何かが生まれるだろう。

編集後記

作庭家の古川三盛さん(10頁)は「見る前に跳ぶ」ことの必要性を説かれ、社会人大学院生の長山昭夫さん(5頁)は「勉強し直す必要性」を言われています。いずれにしても、「地域の知の拠点」(2頁)としての鹿児島大学の基盤の重要性が問われているものと思われまます。

本誌にみられるように、本学は教育、研究、運営にわたって「地域循環型」大学としての取り組みを行っており、徐々にその実をあげていると思っております。

さらなる充実のために、本学の取り組みに積極的にご参加いただき、また、本誌にご意見、ご感想をお寄せいただきますようお願いいたします。

中島あや子
広報誌等編集専門部会会長